

## フィンドレー大学奨学生レポート（機械工学系） 9月 「ホームシックの向こう側」

### ツールライフの見直し

インターンシップを開始してから数週間がたち、主に年間を通して行う業務が決定しました。それは、製品を加工する刃物（ツール）に関するものです。製品を加工する刃物には、加工を施す部位によって、たくさんの種類があります。実際、ひとつのラインだけでも、20 数種類の刃物があります。そして、それらの刃物には、各ライン担当のエンジニアによって、刃物の寿命（ツールライフ）が設定されています。たとえば、ツールライフが 7500 の刃物は、7500 サイクルの工程を行った後、交換されなければなりません。

ツールライフに到達した古い刃物を交換するためには、新しい刃物にあらかじめ取り付けられているタグ（ツールタグ）に情報を書き込み、そのタグと刃物を一緒に、刃物の整備をする部署に渡します。書き込む情報とは、実際に刃物が何サイクルを終えたのか（アクチュアル・ツールライフ）、それとツールの品番などです。私たちインターンの仕事は、それらのタグを逐次回収し、記入されているデータをエクセルのファイルに打ち込み、それらのデータをもとに、ツールライフの再設定・見直しを行うことです。しかしながら、現在、問題点として挙げられるのは、収集したデータ数が少ないことと、収集するツールタグのおおよそ半数がデータの記入不足であるということです。記入不足であるタグでは、その情報を今後の改善に生かすことができません。この悪しき状況を打破するために、ツールタグの記入の仕方を示す A4 大のポスターを作成しました。



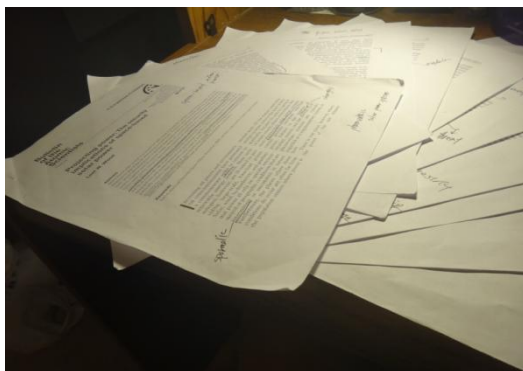
ツールとタグとポスターと私

このポスターには、ツールタグにおける最も重要な情報は何かということ、それに加えて、実際のタグの良い記入例と悪い記入例の写真を掲載しました。

ポスター作成後、各ラインのリーダーに、ポスターを作成したことを伝え、それをツールの保管場所の見やすい位置に設置してよいのかどうかを、打診するというを行いました。彼らは皆、快く引き受けてくれて、なかにはポスターに興味を持って、質問しにきてくれた方までいました。今後、このポスターの効果が表れるかどうか楽しみです。

### アカデミックジャーナルを読む

大学での授業内容がだんだん高度なものになってきました。Composition、Reading、Communication Skill の3つのクラスにおいて、ある専門的な内容について書かれた記事（アカデミックジャーナル）を題材にした課題が出されるようになりました。この課題では、各々が好きなトピックについてのアカデミックジャーナルを5つ読み、それらをまとめ、さらに、その内容をプレゼンテーションでクラスに発表します。ジャーナルのトピックは各々が興味のある分野を選択していいので、私は、宇宙太陽光発電という宇宙技術についてのジャーナルを集めました。特定のトピックについてのジャーナルを集めるためには、大学図書館のデータベースを利用しています。大学のIDを持っていれば、大学図書館のデータベースであるトピックのジャーナルを検索でき、PDFファイルの形式で閲覧することができます。自分の興味のある分野についての研究を知ることができるという最高の環境がそろっています。また、この課題では、その選択したジャーナルを批判(critique)・議論(discussion)し、その論文に対する書評を作成するというを行います。Composition、Reading、では主に書評の書き方・読み方、Communication Skill ではその書評の内容をPowerPointのファイルにまとめて発表します。これらのクラスでの面白いところは、世界中から集まった留学生たちが各々興味のある分野を選択していて、その選択理由には、生い立ち、教育環境、さらに大学での専攻分野など、様々な背景があることです。なぜ、この学生はこのトピックを選択したのか、ということを考えながら、各学生の発表を聴くと面白いです。



手ごわいジャーナルたち

## 日本総領事館訪問

埼玉親善大使として、ミシガン州のデトロイトにある日本総領事館を訪問しました。そこで、在デトロイト日本総領事館を統括していらっしゃる松田総領事にお会いしました。総領事館は、ミシガン州とオハイオ州の行政サービスの提供している国営機関です。そんな総領事館に、オハイオ州と姉妹都市関係にある埼玉県代表として、訪問する機会を設けていただけることになりました。そこで、総領事と約一時間の懇談をしました。軽い自己紹介から始まり、さらに、なぜオハイオ州に日本語を学ぶ学生が多いのかということなどを説明してくださいました。総領事のお話は、一貫性があり、言葉の端々に、高い教養・知識が表れていました。懇談を終えた後、すごい方に出会ったという感動と同時に、今の自分の未熟さを実感させられました。もっと勉強せねば、と思わされる良い機会でした。



総領事館での写真（左から 同奨学生の荒瀬君、私、松田総領事、同奨学生の金田さん）